

2016-6-4 コヨーテの耳介

病理ユニット 河見博子

提出機関：アメリカ テキサスA&M大学

症例：コヨーテ (*Canis latrans*)、年齢不明

病歴：重度の脱毛症を呈する野生動物で、攻撃性があったため銃殺された。

チュパカブラと呼ばれる吸血性未確認生物が疑われ、検査された。

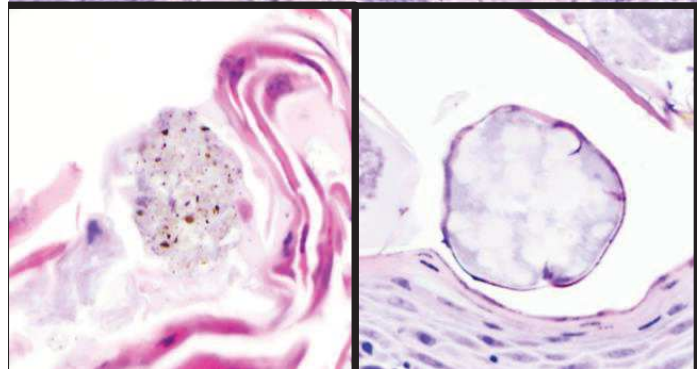
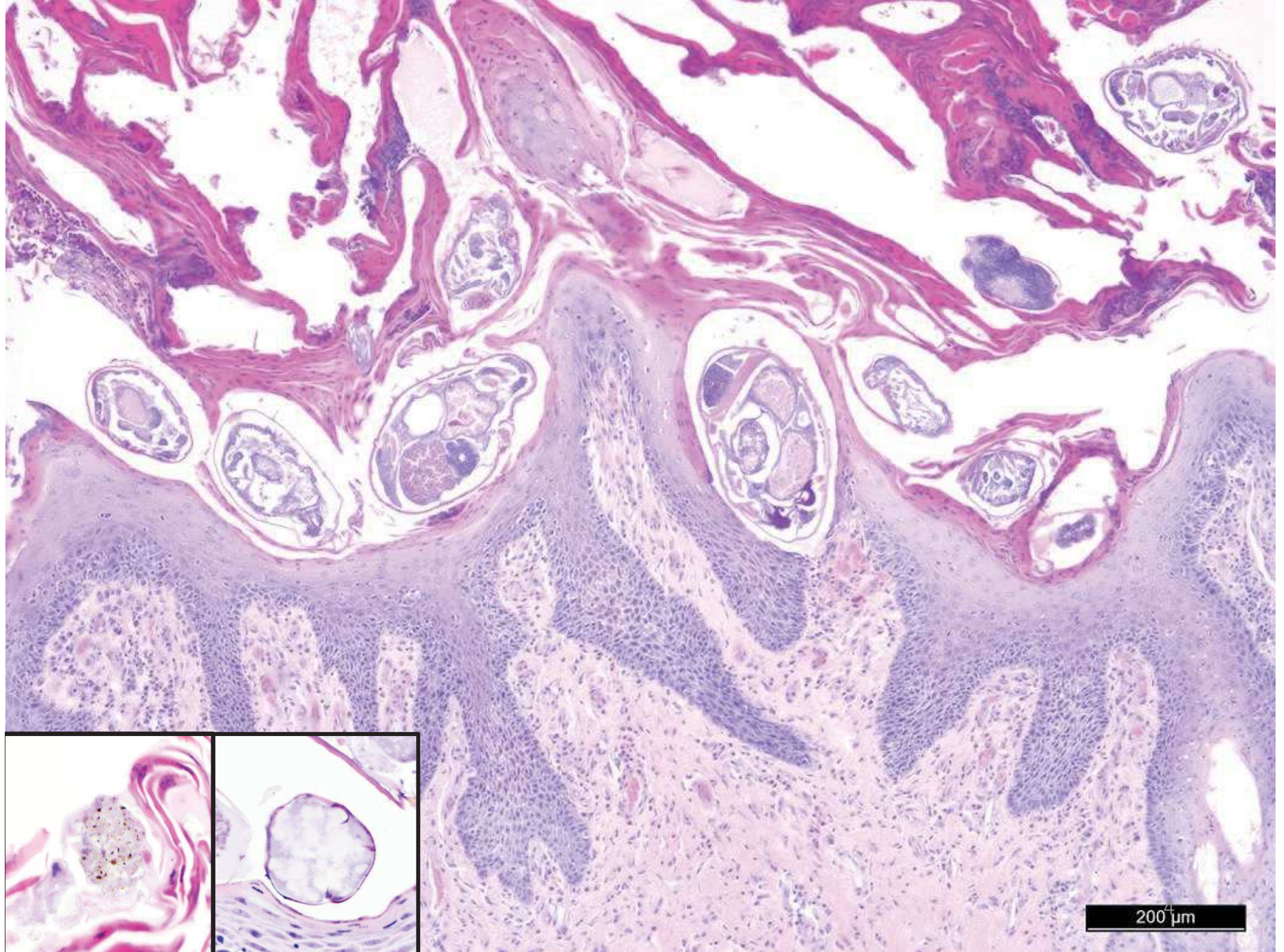




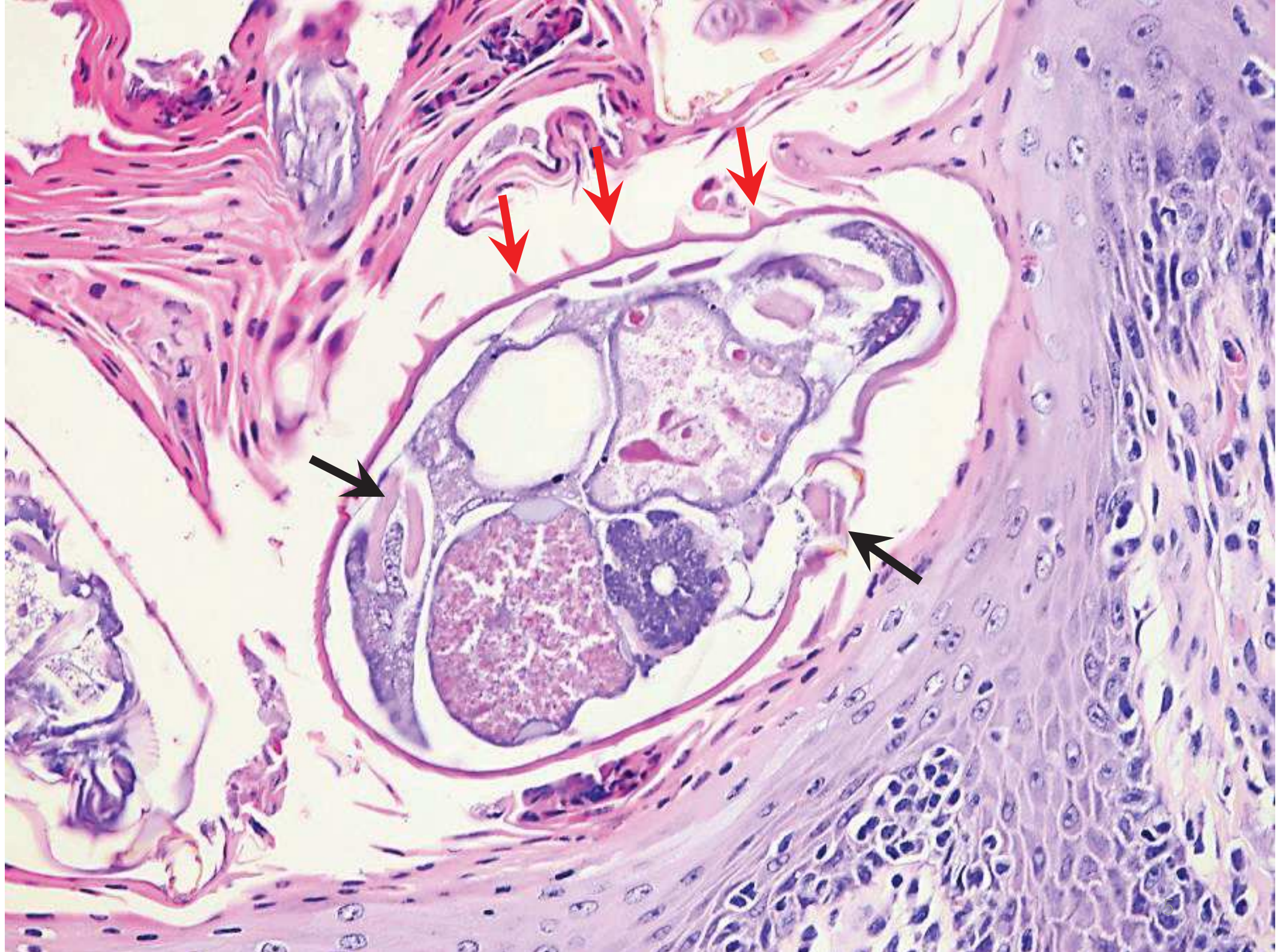
Canis latrans : DesertUSAから引用

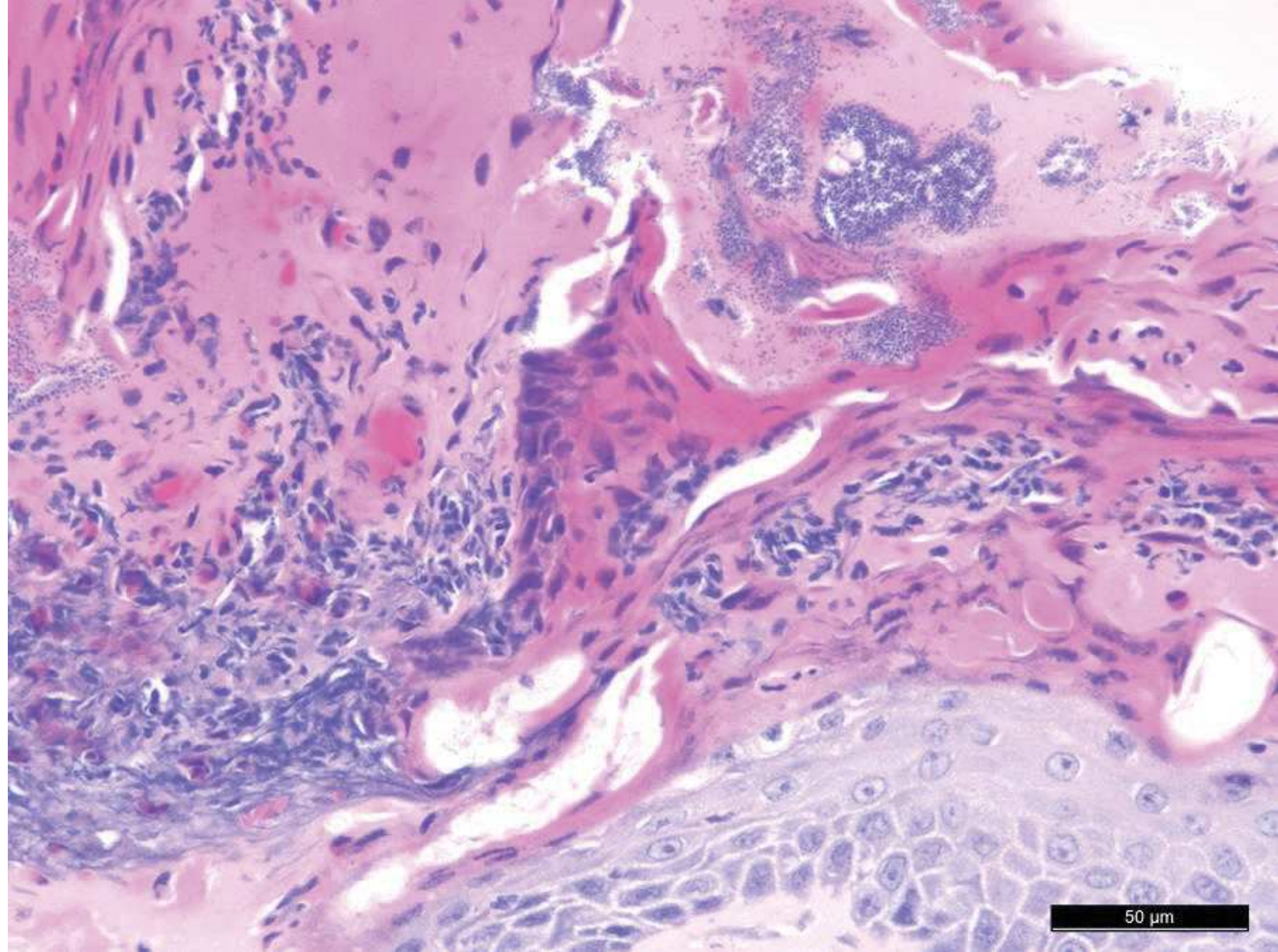






200 μm





50 μ m

提出者の診断

重度の、血漿滲出性、過角化性、過形成性、ダニと細菌を伴う好酸球性皮膚炎

Severe , seroexudative , hyperkeratotic , hyperplastic , and eosinophilic dermatitis with mites and bacteria .

JPCの診断

1.毛の皮膚、耳介、軽度の好酸球性皮膚炎および多数の角質内のダニを伴う、重度、びまん性、表皮過形成および過角化症

2.リンパ節、傍皮質：著しい、形質細胞増多

1. Haired skin , pinna : Epidermal hyperplasia and hyperkeratosis , diffuse , severe , with mild eosinophilic dermatitis and numerous intracorneal mites , coyote , *Canis latrans* .

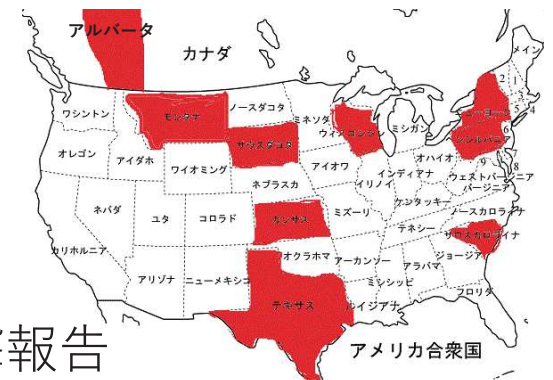
2. Lymph node, paracortex : Plasmacytosis , marked .

◆提出者のコメント

- センコウヒゼンダニ (*Sarcoptes scabiei*)による疥癬
- 伝染性が強く、宿主特異性が高い
- 主な症状
 - ・ 手足や腹部における軽度で局所的な脱毛症
 - ・ 過度の色素沈着
 - ・ 苔癬化及び重度の外傷を伴う全身の脱毛症
- 炎症反応の程度は種や個体によって様々
- 特徴的な症状からヒゼンダニによる疥癬と診断可能
- 北米のコヨーテのセンコウヒゼンダニによるヒゼンダニ症の動物間での感染報告

● チュパカブラの伝説

- ・ プエルトリコで1990年代に始まり、アメリカ大陸で目撃報告
- ・ ヒゼンダニ症と診断されたコヨーテがチュパカブラとして認識された唯一の動物



会議のコメント

◆ ヒゼンダニによる疥癬 (Sarcoptic mange) の病因

- 疥癬トンネルを形成
- 表皮、唾液や糞によるダニ抗原に対する過敏症 (即時型・遅延型)
- ダニ排泄物による刺激

	原因虫		疥癬トンネル
疥癬 (Mange)	ヒゼンダニ科(Sarcoptidae)	Sarcoptes属	○
		Notoedres属	○
	トリヒゼンダニ科 (Knemidokoptidae)	Knemidokoptes属	○
	キュウセンヒゼンダニ科 (Psoroptidae)	Psoroptes属	×
		Chorioptes属	×
Otodectes属		×	

◆ センコウヒゼンダニ (*Sarcoptes scabiei*)

- 成虫雌ダニの特徴

：キチン質外骨格に存在する多数のクチクラの棘

- 宿主特異性が高い (牛・羊・馬・猫でまれ、豚で重要な外部寄生虫)
- 宿主範囲の増加が問題

◆ 本症例について

- 角質層の疥癬トンネルの中に雌ダニや卵を確認
- 付属リンパ節で、皮質の形質細胞増加症を伴う反応性リンパ球過形成 (慢性病変)